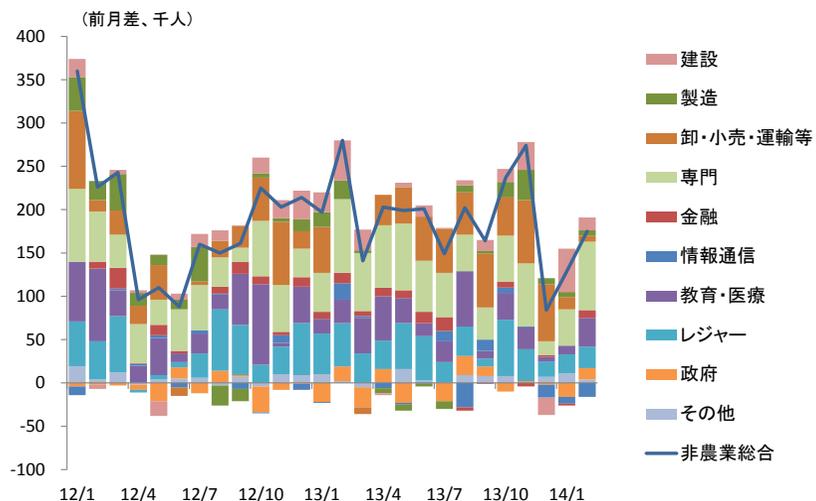


米国：雇用統計（2014年2月）

MRI Daily Economic Points
March 10, 2014

図表1 非農業部門雇用者数（前月差）

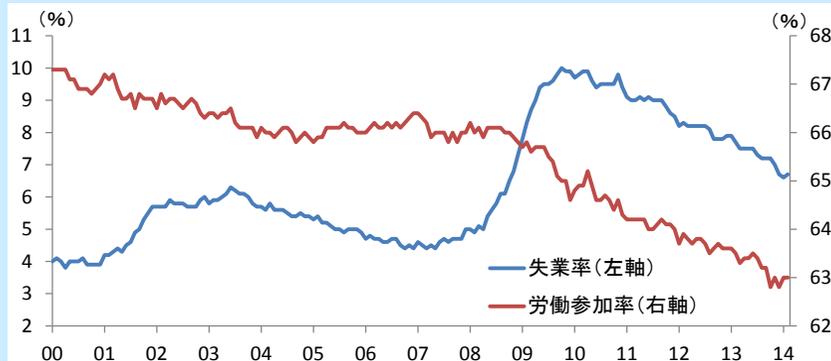


評価ポイント

今回の結果

- 2月の非農業部門雇用者数は、前月差+17.5万人増となった。12月(+7.5万人→+8.4万人)、1月(+11.3万人→+12.9万人)はともに上方修正。
- 2月は幅広い業種で雇用者数の増加がみられた。内訳をみると、サービス業(同+14.0万人)では、情報通信(同▲1.6万人)が減少した一方で、専門・ビジネス(同+7.9万人)、教育・医療(同+3.3万人)、レジャー(同+2.5万人)などが増加した。サービス業以外(同+2.2万人)では、建設業(同+1.5万人)、製造業(同+0.6万人)ともに増加。政府部門(同+1.3万人)も3ヶ月ぶりに増加した。
- 2月の平均労働時間(33.3時間/週)は前月(33.5時間/週)から小幅減少。平均賃金は前年比+2.5%と前月(同+2.3%)から伸びを高めた。
- 2月の失業率は、6.7%(前月6.6%)と小幅ながら悪化し、12年12月以来の上昇となった。労働参加率は63.0%で前月とほぼ同水準で推移している。

図表2 米国失業率



資料：米国労働省

基調判断と今後の流れ

- 2月は、寒波の到来により雇用者数の増加ペースが押し下げられたとみられるが、それでも市場予想(+14.9万人増)を上回る堅調な結果となった。米国の雇用市場は、緩やかな改善傾向を続けていることが確認された。
- 足もとの企業の雇用スタンスをみると、2月のISM雇用指数が非製造業において47.5と、増減の分岐点である50を下回ったが(製造業は52.3)、寒波の影響による一時的な低下の可能性が高い。実際、雇用の先行指数である新規失業保険申請件数は、寒波が和らいだ2月下旬には大きく減少している。
- 米国経済の回復ペースは、寒波の影響から一時的に弱まった可能性はあるが、基調として内需は堅調に推移しており、今後も雇用市場の緩やかな改善傾向は続くと思われる。3月開催のFOMCIにおいて、FRBが量的緩和縮小を継続する可能性は高いであろう。